

かもめの家

症 例 概 要 故 90代後半 要介護4 アルツハイマー型認知症

長女様は3日に1度はご面会にきてくださり、非常にお母様思いな方です。重度化された際には特養へ転居されるご意向でしたが、かもめの家スタッフの親身な対応に「最期はここで亡くなって欲しい」とお看取りを希望されました。24時間体制で往診医・訪問看護・介護で最大限の連携を図り、お看取りを実施。ご本人・ご家族のご希望であった、「かもめの家でお経をあげ、皆で看送ること」・「ご本人のご希望である献体」への対応を、チームで実現できた症例。

内 容

ご家族は非常にお母様を大事にされており、3日に1度はご面会にお越し下さり、若かりし頃のお話や、ご本人のご希望をお話し下さいました。令和7年5月頃より食事摂取量が1～3割程度となり、約5か月で6.7kgの体重減少。臥床する時間も長くなり、左脛や左右大転子、右背部に皮むけが発生してしまいました。OT・医療連携看護・ご家族もチームの一員として、嗜好である「あんこ」の提供による食事量の回復や、半年掛かりましたが皮膚状態も改善し、食事摂取量及び離床時間も拡張していきましました。

今年に入り、ゆっくりと状態が低下していくご本人を見ながらご家族より、「元々、重度化したら特養への転居を考えられていましたが、かもめの家で生活をしていく内に母にとってここは幸せな場所だと思います。最後はここで亡くなって欲しいです」と、かもめの家でのお看取りをご希望されました。

また、ご本人が以前より大学病院での献体を希望されていた為、長女様も「母の希望を叶えたいです」と、かもめの家でのお看取り、そして葬儀は行わず、献体先病院へ運ばせて頂くこととなりました。

3月中旬より、嚥下状態が悪化。ゼリー飲料中心の捕食へと食事形態を移行し、ご本人の負担を最小限にします。4月には水分摂取が困難となり、微熱やSPO2も90を下回る状況。24時間対応の往診医及び訪問看護と、ほぼ毎日連携を取りながら、こまめな体位交換や口腔ケア、寂しくない様に声掛けを密に行い、苦痛緩和の在宅酸素、点滴を実施しながら、緩やかにお看取りへの準備を行っていきましました。

4月中旬 1時頃 ご逝去。訪問看護と共に、関わったすべての職員でエンゼルケアをさせて頂きました。翌日、ご住職によるお葬式に代わるお経（供養）を居室にて実施。職員・ご利用者も手を合わせ、お見送りさせて頂きました。

ご家族より、『簡単な葬儀を僧侶を呼び、お世話になった方々に囲まれ、自分の部屋で実施することができたこと、初めてだったという献体への対応を叶えて下さり、本当に感謝しております。入居して3年2ヶ月という短い期間でしたが、母は幸せだったと思います。』と、涙ながらに感謝のお言葉を頂くことが

できました。15時頃 葬儀屋が到着され、献体先である大学病院へと運ばれ、職員一同でお見送りをさせて頂きました。

看取り対応を行わないグループホームも多い中、かもめの家は「自分の家」という理念を貫き、最期まで綺麗な身体を保ち、お看送りすることができました。Ourteamで対応できたこの親身な対応は、キラキラ介護賞にふさわしいと思い、推薦させて頂きます。